

編集 後記

本誌が発行される2019年3月は平成最後の年度末であり、巷には30年を振り返る企画があふれています。そこで、30年前の本誌第36巻の目次を遡ってみると、水質汚染や大気汚染など国内の環境衛生に関する問題、循環器疾患への対応や減塩対策など「成人病」に関する話題などが多くみられる一方、キーワードに「老人」があるのは約90編中3編のみで、時代の変化を感じました。一方、麻疹の流行など昨今と共通するテーマもあり、公衆衛生の課題の反復性も見て取ることができました。

さて、本号には4編の論文が掲載されています。特別論文では第6期公衆衛生看護のあり方に関する委員会が3年間にわたり検討を重ねてきた、コミュニティ・アセスメントに関する報告が示されています。保健師を取り巻く環境も教育体制もこの30年間で大きく変化し、地区活動の脆弱化が課題となる中、公衆衛生看護活動の基盤となるコミュニティ・アセスメントの方法論を提示したことは大きな意味があると考えます。

原著論文では、まず、独居高齢者の配偶関係が生活機能や精神的健康に及ぼす影響についての追跡調査が掲載されています。独居高齢者の増加、婚姻形態を含む家族の態様の多様化が進む中、配偶関係について丁寧に分析した本研究は、独居高齢者へのより個別的なアプローチを進めるのに特に有用であると思われます。

また、2本目の原著論文は、乳児院・児童養護施設での食物アレルギー児への対応に着眼した研究です。児童の保護は緊急性が高く、家族からの情報も得にくい一方、食物アレルギーも時には命に係わることから、必要な情報を迅速に収集することは重要であり、今後対応の充実が図られることが期待されます。

資料は高齢者の食事関連QOL尺度について、短縮版を含めて計量心理学的に検討した論文です。低栄養や孤食など、食事が高齢者の健康寿命やQOLに関連することは広く指摘されており、それについて簡便にアセスメントできる尺度は有用性が高く、今後広く活用されることと思います。

日本公衆衛生雑誌では、今後も人々の健康に資する研究を広く掲載し、公衆衛生活動の推進に寄与していきたいと考えます。幅広い分野からの投稿をお待ちしております。
(永田智子)

次号予告 (第66巻・第4号)

原著

乳幼児の行動評価と自閉スペクトラム症との関連：乳幼児健康診査に導入した半構造化行動観察の有効性……………奥野みどり，他

公衆衛生活動報告

熊本県御船保健所における熊本地震の被災者への支援活動：感染症・食中毒，栄養・食生活支援対策を中心に……………大倉香澄，他

資料

特定健診未受診に関連する要因の検討：千葉県海匠地区国民健康保険加入者に対する調査……………原田亜紀子，他

国民健康・栄養調査の非協力者を同定するための国民生活基礎調査とのレコード・リンケージにおけるキー変数の組合せに関する検討……………池田奈由，他